

宮崎県市町村・地域づくり団体等協働モデル事業

富田浜ルーピン復活！ プロジェクト事業

花の里づくり会



事業名：富田浜ルーピン復活！プロジェクト事業

1. 【団体の概要】

本会は、地域における各種団体等が連携し、世代を超えた交流や環境づくりなど花の里づくりに積極的に取り組むことを目的として設立された。

2. 【事業の目的、ねらい】

富田浜付近には、レガッタ・ボートのできる入江、遊歩道のある松林、アカウミガメの上陸する浜、子どもの集まる公園・プールなどの地域資源が多くある。しかし、そういった資源があることを知らない町民も多く、地域資源への認識・愛着というものが薄れている。そこで、町の花ルーピンを町民も参加して植栽することにより、富田浜に目を向け、地域資源の再認識をするきっかけに繋がるようにすることが目的である。また、昨今希薄になってきているコミュニティの交流の場も設け、世代、地域、職種を超えた交流を行い、地域のコミュニティ力の底上げもねらいとする。

3. 【活動内容】

行政と町民（一般、自衛隊、スポーツ少年団、老人クラブ、企業、農家）が協働し、ルーピン畑の土づくりから種まきまで行った。

○平成 26 年 8 月 11 日（参加者 42 名）

町内中学生を対象とした体験ボランティアを募り、植栽地の整備（石拾い、ゴミ拾い）を行った。また作業後に、アカウミガメの勉強会を開催した。



参加した中学生からは、「富田浜の南側にこんな場所（ルーピン植栽地）があること知らなかった」「富田浜にこんなにアカウミガメが上がっているのは知らなかった」等感想もあり、十分に富田浜の地域資源の魅力を伝えることができた。

○平成 26 年 4 月～11 月

町内企業、畜産農家に植栽地の耕転を委託し、年間を通して土づくりを行った。これには、企業や農家の人たちにも「自分達が耕した富田浜にルーピンが咲いた」という気持ちを持ってもらいたいという気持ちもあり委託して耕転してもらった。



○平成 26 年 10 月 2 日

ルーピンの植栽環境が類似している鹿児島県東串良町への視察研修を行った。東串良町は海岸沿いの砂地に植栽されており、一部自生に取り組んでいることから、コストを削減しつつ、継続性のある事業にするためのノウハウを学んだ。



○平成 26 年 10 月 10 日

ルーピンの種を町内各地区へ配布

（地区の集会所や、家庭に植えてもらいルーピンへの興味・関心を持ってもらった）

○平成 26 年 10 月 25 日（参加者 300 名）

行政、地域住民、自衛隊、老人クラブ、スポーツ少年団等が参加し、富田浜周辺の清掃活動とルーピン植栽地の種まきを行った。同時にアカウミガメ保全を行っている人たちに話をしてもらい、アカウミガメの放流会を行った。



子ども達の中にはルーピンの種を知らない子や、子ガメを初めて見る子がほとんどで、今回の企画で富田浜に興味を持ってもらうことに繋がったのではないかと感じた。

※富田浜清掃大作戦、レガッタ大会とタイアップ予定であったが、いずれも台風で中止

4. 【事業の成果、効果】

新富町内住民と行政が協働することにより富田浜の景観（海、入江、公園、松林）アカウミガメ等、町の大切な地域資源であることを再認識するきっかけに繋がった。（特に子ども達に伝えられた）

年代、地域、職種を超えコミュニティ活動の促進を図ることができた。



上記の写真は現状の写真で、砂に植栽していることや土づくりも一年目で、発育も悪いところが多い。来年度以降も企業、農家さんと協力して土づくりに力を入れていき、自生・植栽できる土づくりを継続していきたい。

後々には鹿児島県東串良町（下写真）のように海岸線沿い一面にルーピンが咲くようにしていきたいと考えている。



※写真は東串良町の様子

また、花づくりを通して、他の地域づくりの分野との連携にも今後期待できそうである。

5. 【まとめ】

今回の事業を通して富田浜を地域資源として再認識するきっかけになり、地域資源の大切さ・魅力を次世代に伝えることができた。昨今では希薄になった地域活動を行うことにより、年代、地域、職種を超えた交流もでき、コミュニティ活動の底上げにも繋がった。

今後の展開としては、ルーピンの種の採取を町民と共に行い、ルーピンが自生できるような土づくりをしていきたい。富田浜、ルーピン復活プロジェクトを持続していくことにより、地域交流を深め、地域資源への関心を強めることに繋げていきたい。

最終的には、地域の資源は自分達（町民）で守る・伝えるものという意識に繋がることを目標に活動していきたい。